

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成26年度病害虫防除情報第10号

いちごの病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

うどんこ病・ハダニ類の発生が増加傾向にあります。 早期発見に努め、発生初期の防除を徹底しましょう。

- 1 作物名 冬春いちご
- 2 病害虫名 うどんこ病・ハダニ類
- 3 発生状況（経過）

1 11月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

1) うどんこ病

発生面積率：38.5%（前年33.3%、平年40.7%） 平年並
発病葉率：11.4%（前年8.2%、平年6.9%） 平年よりやや多

2) ハダニ類

発生面積率：61.6%（前年66.6%、平年39.7%） 平年よりやや多
寄生株率：20.8%（前年19.3%、平年10.5%） 平年よりやや多

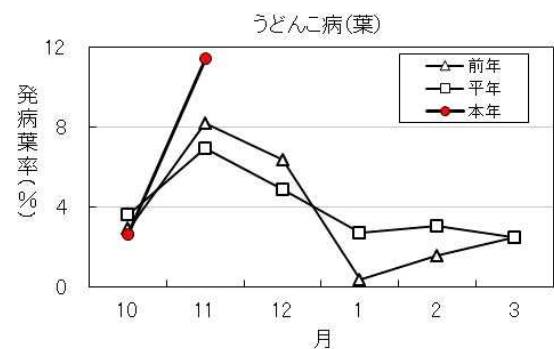
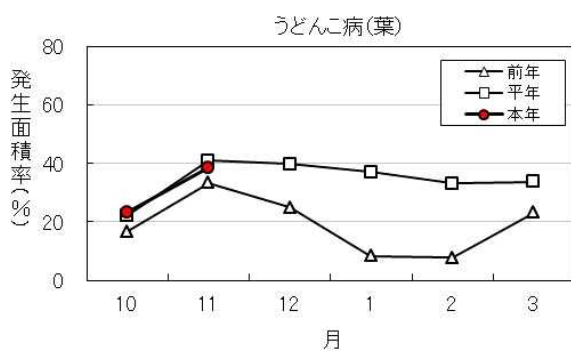


図1 うどんこ病の発生状況（いちご）

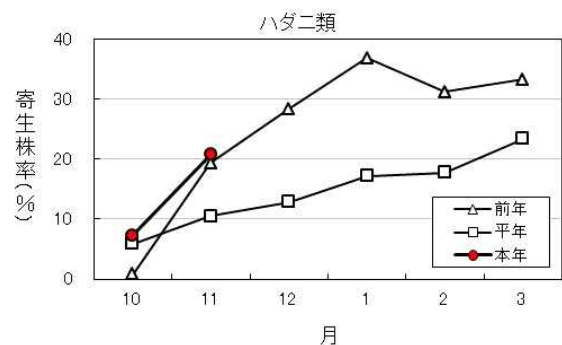
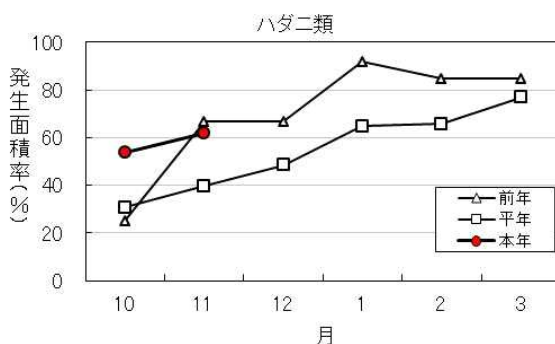


図2 ハダニ類の発生状況（いちご）

4 防除上の注意

1) うどんこ病

- (1) 一般的に、各作物のうどんこ病は比較的乾燥した条件で発生するが、いちごうどんこ病は多湿・乾燥いずれの状態でも発生がみられる。ハウス内の換気を行い、高湿度条件にならないように努める。
- (2) 葉・果実・葉柄・果梗・蕾に発生する。蔓延すると防除が困難になるので、初期防除を徹底する。
- (3) 発症した葉・果実は可能な限り除去し、適切に処分する。併せて、できるだけ早く防除を行うが、葉裏・果実にしっかり薬液がかかるように丁寧に散布する。
- (4) 予防散布を中心に防除を実施するが、発生が多い場合は一週間程度の間隔で連続して防除を行う。その際、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統のローテーション散布に努める。

2) ハダニ類

- (1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、スポット散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- (2) 急激に個体数が増加するため、初発生を認めたら直ちに防除を行い、発生が多くなったら5～7日間隔で連続して防除する。
- (3) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- (4) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- (5) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。

5 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 久野

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp